

～古文・漢文の学習アドバイス～

・古文、漢文の学習について改めて取り組みたいという人に向けて、学習の例、実践問題を解く際のアドバイスを紹介します。あくまで一例ですので、自分にあつた学習スタイルや必要なポイントを見つけてください。

(はじめに)

☆学習計画全般について☆

・計画を立ててみるものの上手くいかない、集中力が続かない、という人は、まずは30分程度の短めの時間に設定するのがコツです。**30分間は勉強に没頭、上手くいけば小休憩をはさみもう30分**というように、小さな計画にわけてみましょう。達成感を少しでも味わうことができれば、意欲が湧き継続しやすくなります。慣れればだんだん伸ばしてみましょう。

●日々の学習編 (自信と基礎力をつけるため)

【古文】 ～2ステッププラス1、①がまず必須～

(まず先週自宅に送った荷物の中の国語科よりのプリントを参照してください)

① 古文単語チェック (20～30分程度)

☆ **漢字に直して書く**とどのような語か、また「語感」の部分を読んで、語のニュアンスと一緒に覚えようとする。一回につき何語進めるかは、毎日継続できる量を意識して決めよう。

② 問題集の問題一題 (おすすりめ本は先週のプリントや、学年便りや進路のしおりでの先輩からのアドバイスを参照してください。一冊をやりこむこと)

- ☆ その問題集用のノートを一冊用意すること
- ☆ 解答に15～20分、答え合わせ・解説確認に15～30分程度。30～50分で一題。
- ☆ 最初はできるだけ自力で。さっぱりわからなければ、辞書や文法書を併用しよう。
- ☆ **わからなかった単語・知らなかった文法事項などをノートに書き、復習できるようにしておく。**

③ プラスワンでもう一題進むか、特に気になった文法事項を勉強)

- ☆ もう一題する場合は②と同じ
- ☆ ②の問題ででてきた語の関連語(似た助動詞や、単語、助詞など)について、調べてポイントをノートに書いておくなどする。(20分程度)

【漢文】 ～問題集なければ①、②でOK。本文付き問題をしたければ用意して①、③～

(基礎力に自信がない人は、今しておきましょう。短期集中(二・三週間程度)で行おう)

① 漢文句形チェック (20～30分程度)

☆ 『ぶっつけセンター漢文』を用い、例文を①読めるか、②訳できるか、を確認していく。

☆ 一回につき、一つの句法のみとまり(再読文字、否定形、禁止形など)をまとめて復習する。

② 『漢文必携』(黄色い文法の本)の練習問題のページを解答する

☆ 一日30分程度でも、しっかりと身につけた人は取り組んでみよう。解答は一年次の各講座で配られている。または該当ページを参照して確認しよう。

③ 問題集の問題一題

☆ 入門編としては河合出版の『ステップアップノート10 句形ドリルと演習』などが入手しやすい。その他進路のしおりなどでの先輩からのアドバイスも参照してみてください。

●実践問題を解く際は…

【古文】

・人物（呼び方・主人公の状況・主人公との関係）

・身分（上下関係）

・心情

の3点を把握しよう。

- ・リード文で紹介されている登場人物の 名・役職・人物関係 をふまえた上で本文を読む。
- ・本文はどんな場面か、主人公が何をしようとしているかといった情報に注意する。
- ・本文中では各登場人物がどんな呼び方をされているか注意する。

※ 役職名が呼びび名になることも多い。また役職名で呼ばれる際、性別を読み違えたりすることも多いので、リード文・注なども確認する。

・身分差は敬語の使い方に表れる。貴人に対しては敬語表現が用いられる。また、帝や中宮、女御・東宮（または道長など時の権力者）などがでてくる場合特に注意。最高敬語、絶対敬語、自尊表現などの知識が関わってくる。帝をさす単語は複数あるため、辞書や単語帳で確認する。

・センター試験であれば本文読解から設問解答までにかかけられる時間は15〜20分程度でしたが、共通テストでも原則は変わりません。品詞を意識しつつスピーディに読む力を身につけてほしい。今のうちに品詞分解は丁寧に練習しよう。（時間をかけずに処理していくようなうちは、活用の種類や活用形がすぐ判断できるように復習。助動詞や助詞や敬語は決まったマークをつける。呼応する語は線でしるべし、など）

・特に傍線部については、必ず品詞分解して丁寧に解釈しよう。複数の意味が浮かぶ語は、前後の内容をふまえて訳すようにしよう。

・形容詞や形容動詞の意味はしっかりとおさえる（心情・感想を表す語に多い）。

・接続助詞・副助詞・終助詞の訳の仕方も本文解釈において重要。品詞分解して識別できるようにしよう。

・和歌の内容解釈は、その和歌の訳だけでなく、前の地の文（贈答歌であれば詠み合っている歌）をふまえて考えるように。

・想定していた解釈と話がずれてきていると感じた場合は、気になる箇所（自信のない箇所）をマークしておき、後で確認できるようにしよう。

【漢文】

・リード文で紹介されている登場人物の情報をふまえて読むのは古文と同じ。

・本文では呼び方が名の一部をとっている場合も多いので、人物名には注意。

・主要な人物名や、『ぶつつけ漢文』で見たことのあるような重要単語をマークしながら読みすすめる。訓読をしつつ、名詞以外の語にふりがなをふりながら読みすすめる。自分の解釈があっていたか後から再確認する際に役立つ。（わづらひわかない語は特に後で復習）

・白文になっている部分の訓読は、重要句形と、漢文の語順（のくろなひ）を意識。

・傍線部の語の読み方や、書体と、解釈問題は、必ず前後の内容に照らして読み解くように。（「いとうい訳になるべき所なので、このように読み方をする」ところの風の内容を意識）

・一字の漢字は文脈に沿った熟語を覚えておくように。

・重要句形の知識は必須。また、漢文では

対句（二二の句の対応する呼ぶひびが同一の品詞である）
対句（二二の句の対応する呼ぶひびが同一の品詞である）
対句（二二の句の対応する呼ぶひびが同一の品詞である）

対句（二二の句の対応する呼ぶひびが同一の品詞である）
対句（二二の句の対応する呼ぶひびが同一の品詞である）
対句（二二の句の対応する呼ぶひびが同一の品詞である）